

柳亭種彦録

一蘭齋國綱画

四十二編下



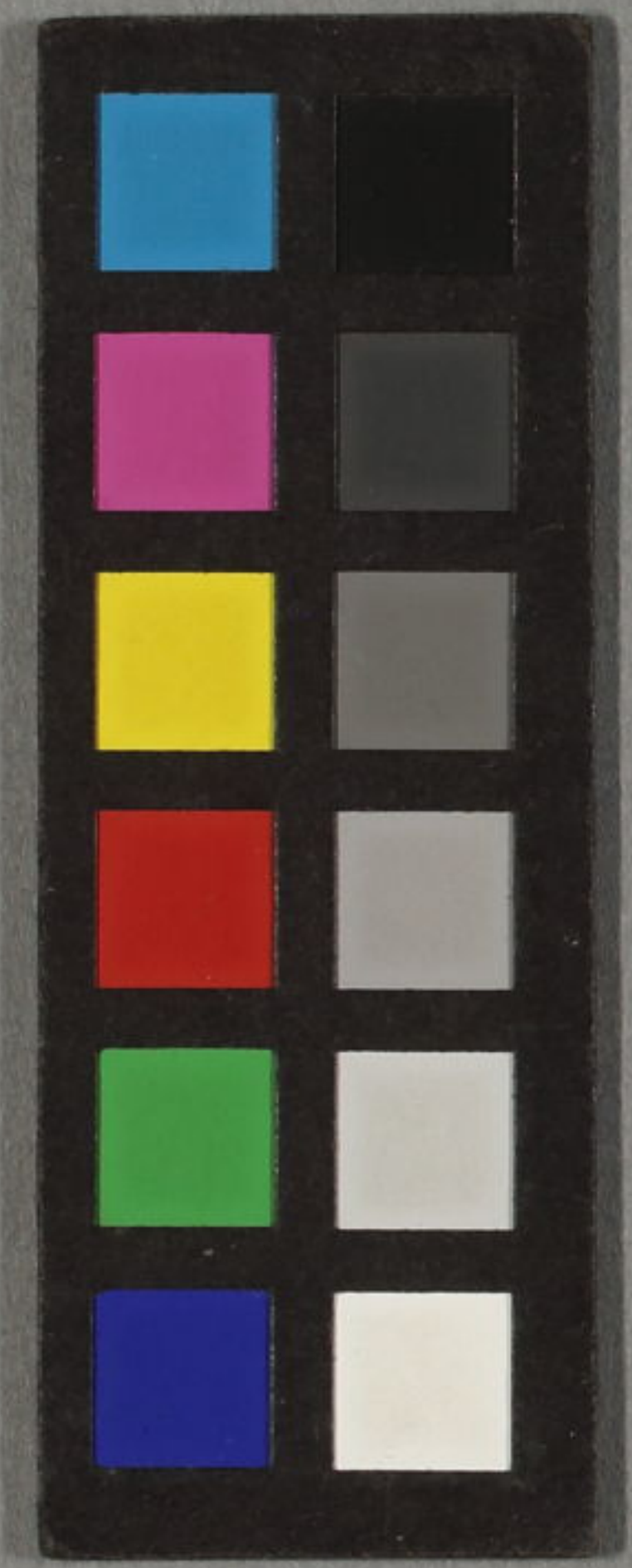
大傳大の抄紙

四十二編上

升題圖身

蔦吉祥





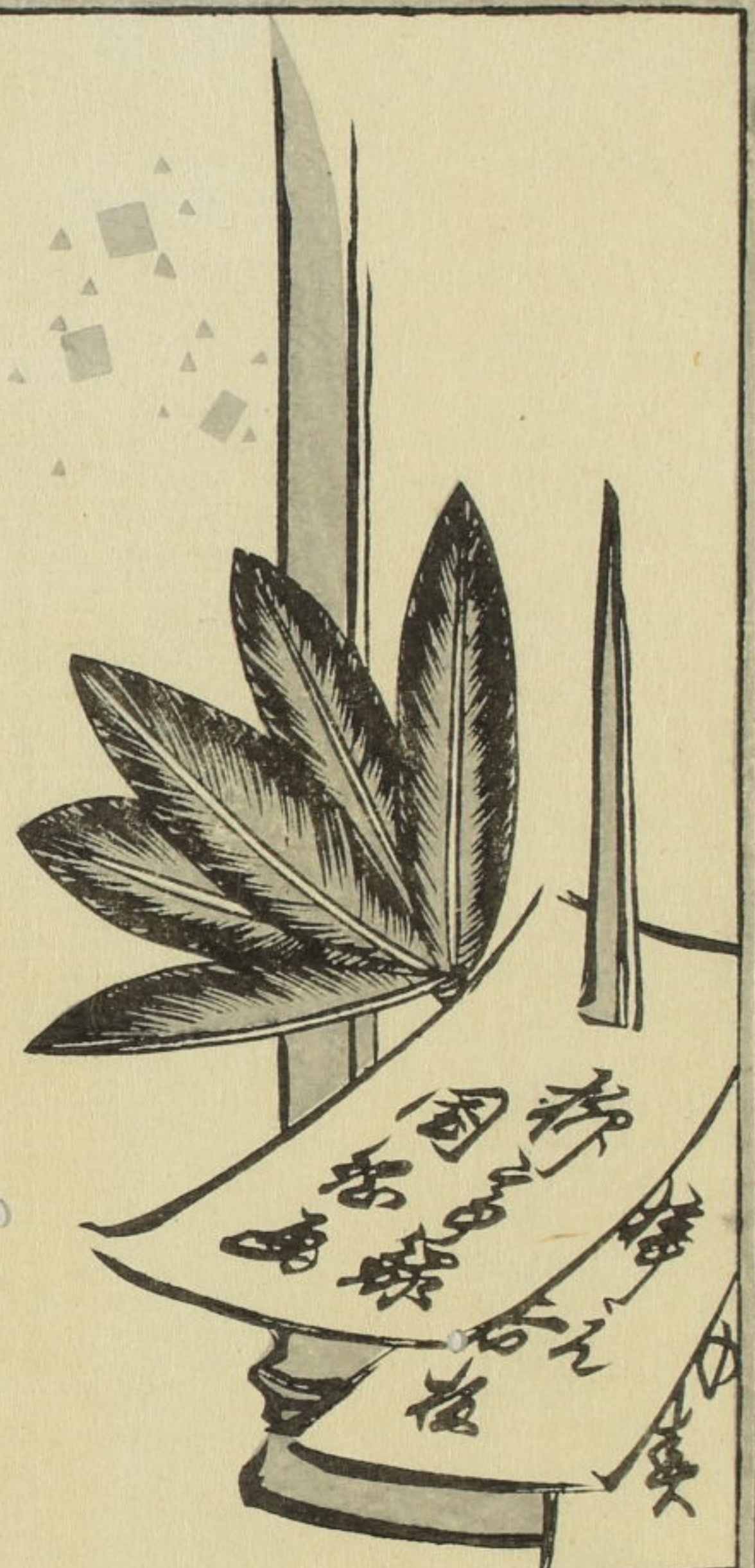
大傳太の抄紙

四十二編上

井題圖

葛吉祥





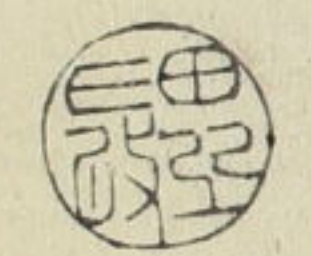
ハ火傳  
いぬのさし

白子二巻也

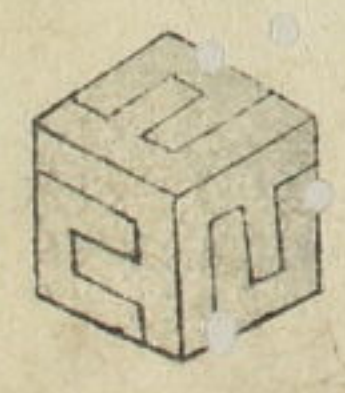


或田舎の手習師面筆塚と云ふ人々を名聞として其父の村あり  
 其父は用筆筆の如く糊を著禿くと筆を顧みぬを習ふを知らぬ  
 畜生こと一番親を言ふと此先生筆の跡を弟へ先祖の法を  
 伝へりつらう一跡の道なる扇子手巾を以て必書くふせと大なる形を  
 顧み著指せぬの形ありて一書筆黄兒と云ふ病者ありて  
 その人のその人の神を怨み無事民を屠戮する度種より  
 七懼魚一嗟小善ありて易し大悪も亦然り也其後村に  
 究那時より校免死して走狗喜らると廿七歳時を引くと飲大の壁言  
 の縁あれはさるるく大なる世話をやると席文のあふと認るるよこそ

万延 屠維協給鶴尾下濂



柳亭種彦



濱路姫病牀小  
寛鬼了厭鬼了



里見義成北方  
吾孀前

此の  
解の  
も  
は  
に  
下  
快  
記  
べ







此の巻は... (top right text)  
 此の巻は... (middle right text)  
 此の巻は... (bottom right text)  
 此の巻は... (left side text)  
 此の巻は... (center text)  
 此の巻は... (bottom center text)



此の巻は... (top left text)  
 此の巻は... (middle left text)  
 此の巻は... (bottom left text)  
 此の巻は... (center text)  
 此の巻は... (bottom center text)







水鏡 卷之四十一

十一



水鏡 卷之四十一



二葉 卷四十一

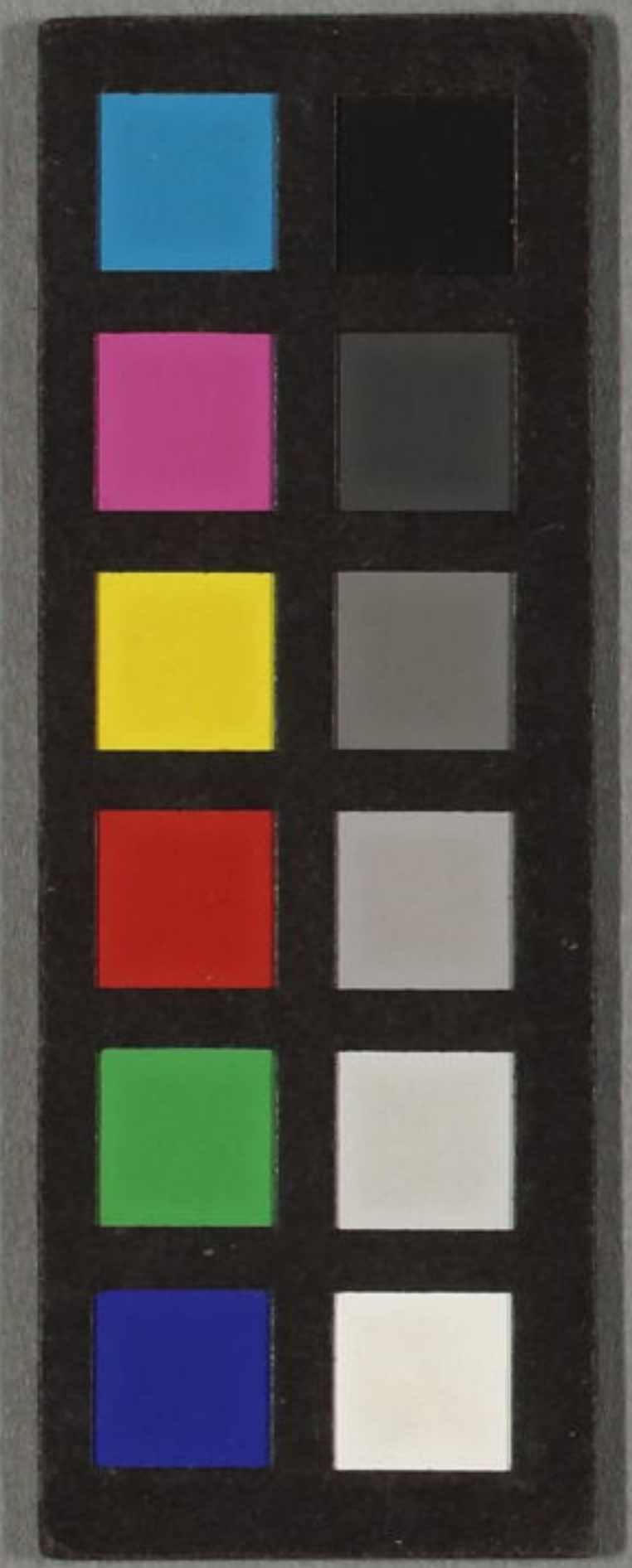
七











柳亭種彦録

蘭齋國綱也

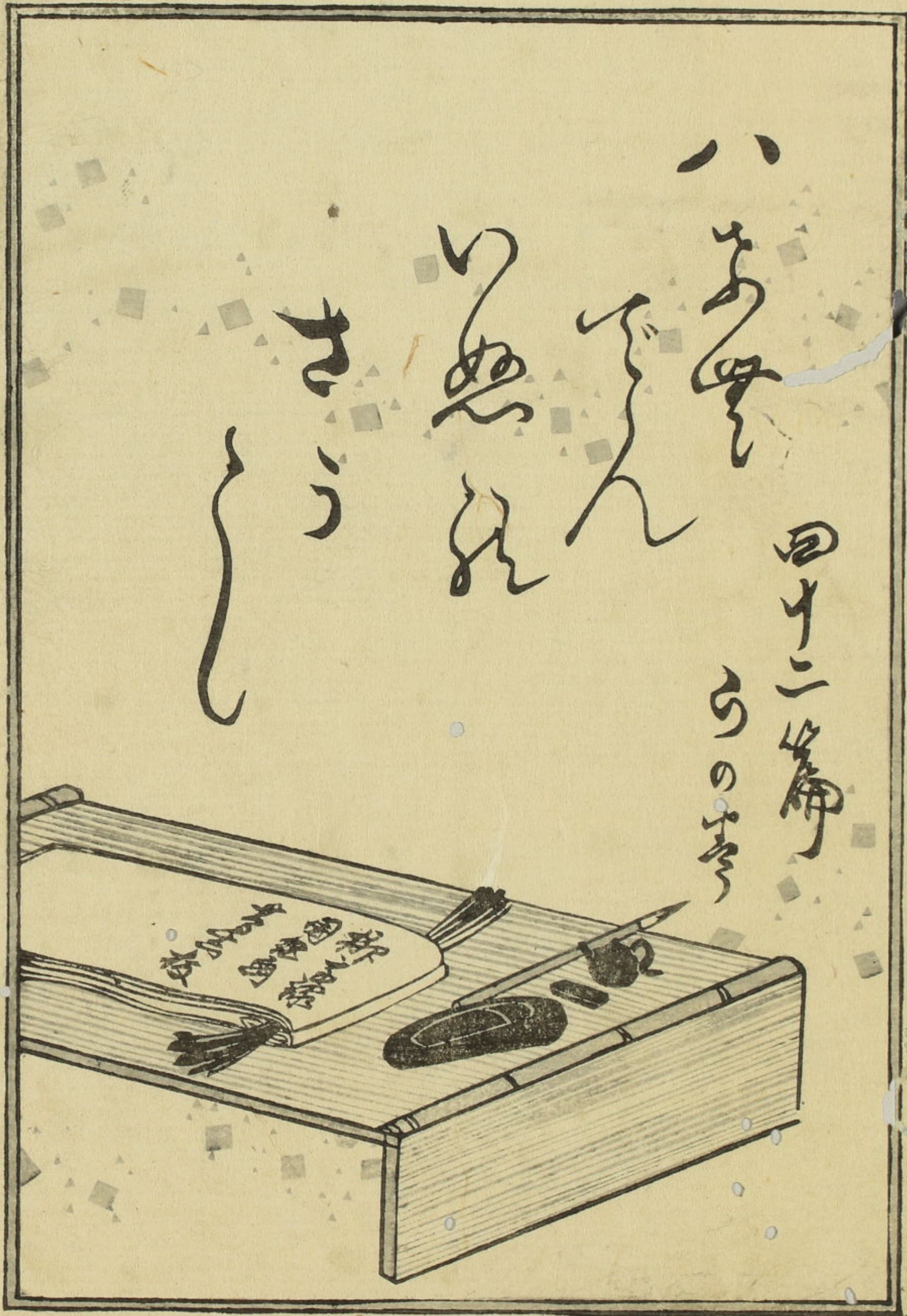
四十二編下





神餘の光弘の  
 落能の墨之助弘世  
 多病廢疾  
 九三四郎又抱の

三つとて...  
 神餘の光弘の...  
 落能の墨之助弘世...  
 多病廢疾...  
 九三四郎又抱の...



八  
 さ  
 り  
 し  
 り  
 ら  
 の  
 回  
 の  
 書









Vertical text columns on the top left of the illustration, likely providing context or dialogue for the scene.

Vertical text columns on the right side of the illustration, continuing the narrative or dialogue.

Vertical text columns on the top left of the page, above the illustration.



Vertical text columns at the bottom of the page, below the illustration.











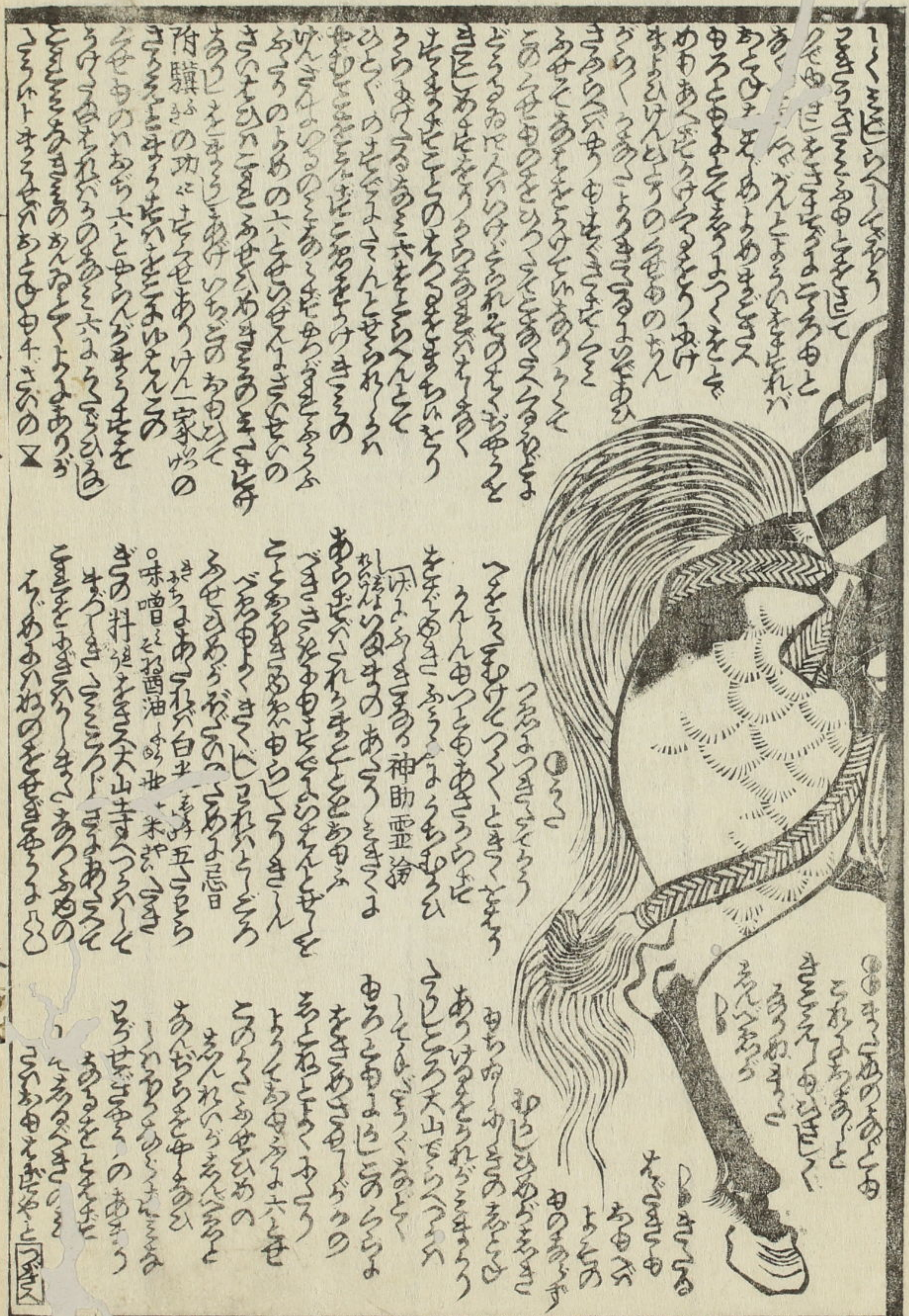




新兵衛  
 拜領の荒馬  
 青海皮と騎  
 詩むる圖  
 畫解  
 四十三箇  
 也

大業  
 新  
 拜領  
 荒馬  
 青海皮  
 騎  
 詩むる圖  
 畫解  
 四十三箇  
 也

新  
 拜領  
 荒馬  
 青海皮  
 騎  
 詩むる圖  
 畫解  
 四十三箇  
 也



新  
 拜領  
 荒馬  
 青海皮  
 騎  
 詩むる圖  
 畫解  
 四十三箇  
 也

新  
 拜領  
 荒馬  
 青海皮  
 騎  
 詩むる圖  
 畫解  
 四十三箇  
 也

新  
 拜領  
 荒馬  
 青海皮  
 騎  
 詩むる圖  
 畫解  
 四十三箇  
 也

**地本草紙問屋**

南傳馬町壹丁目  
**葛屋吉藏板**

**花封蒼玉章**  
四編 同作  
五編 國貞画  
六編 國貞画

**薄倂幻日記**  
七編 春水作  
八編 國貞画  
九編 國貞画

**大晦日曙草紙**  
廿六編 同作  
廿七編 國綱画

**犬傳犬の神紙**  
三編 柳亭録  
四編 國綱画

**童謡妙々車**  
十二編 春馬作  
十五編 國貞画

**戀車淀翠翠**  
五編 種清作  
六編 國貞画

**明鴉墨土画通禰福**  
三亭 春馬作  
梅蝶樓 國貞画

初編の時次郎浦里が未生以前の物語なりてその父胸田の次郎とて其のあやうき  
賭博の苦計を設け不事行ひて却て身を亡しその物語且古流連の意慕の奇極  
將不離真弓を殺さるの一段は二編に續け六編に及ぶ浦里の長編物語と推し  
打成長途を説く八編より花封半開香を其意あること主として例の長編物語と推し



**柳亭種彦鈔**

○富山のあざりての物語あり  
百六回ある  
大山寺の  
たらの  
よの

○與四郎富山の  
大悲者よ奉仕せ  
始まつて  
四十三編の上の  
表巻よ赤女  
誌さんめ

**一蘭齋國綱画**

○與四郎富山の  
大悲者よ奉仕せ  
始まつて  
四十三編の上の  
表巻よ赤女  
誌さんめ

